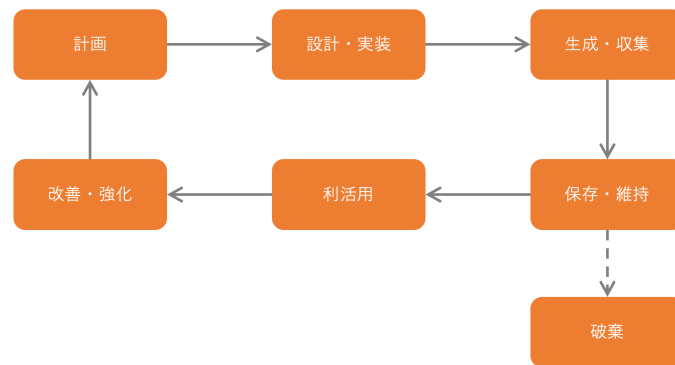
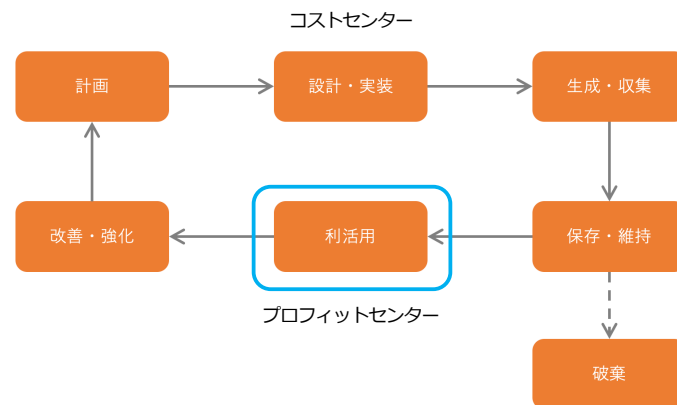
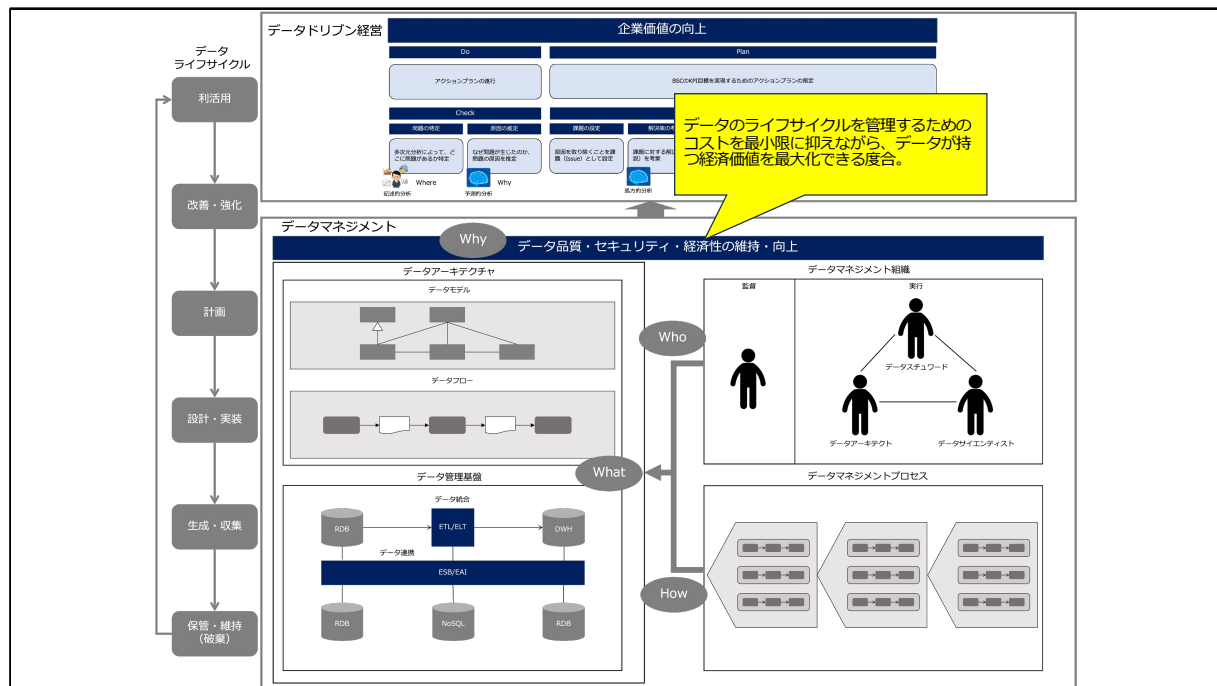


データのライフサイクル

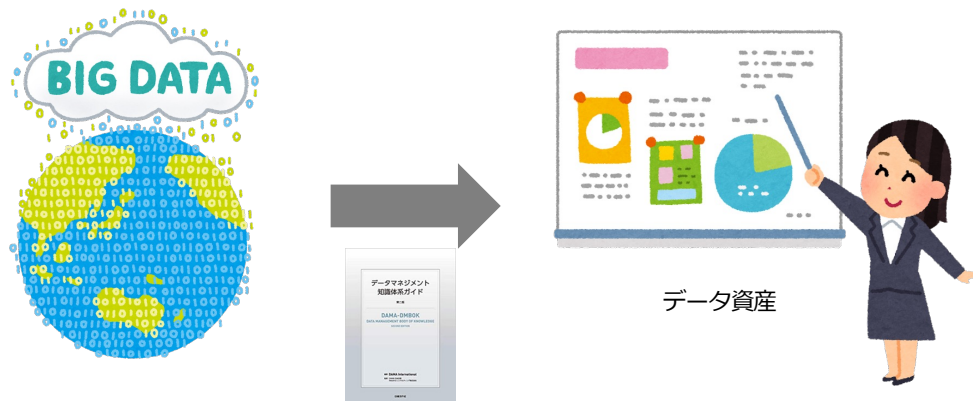


データのライフサイクル

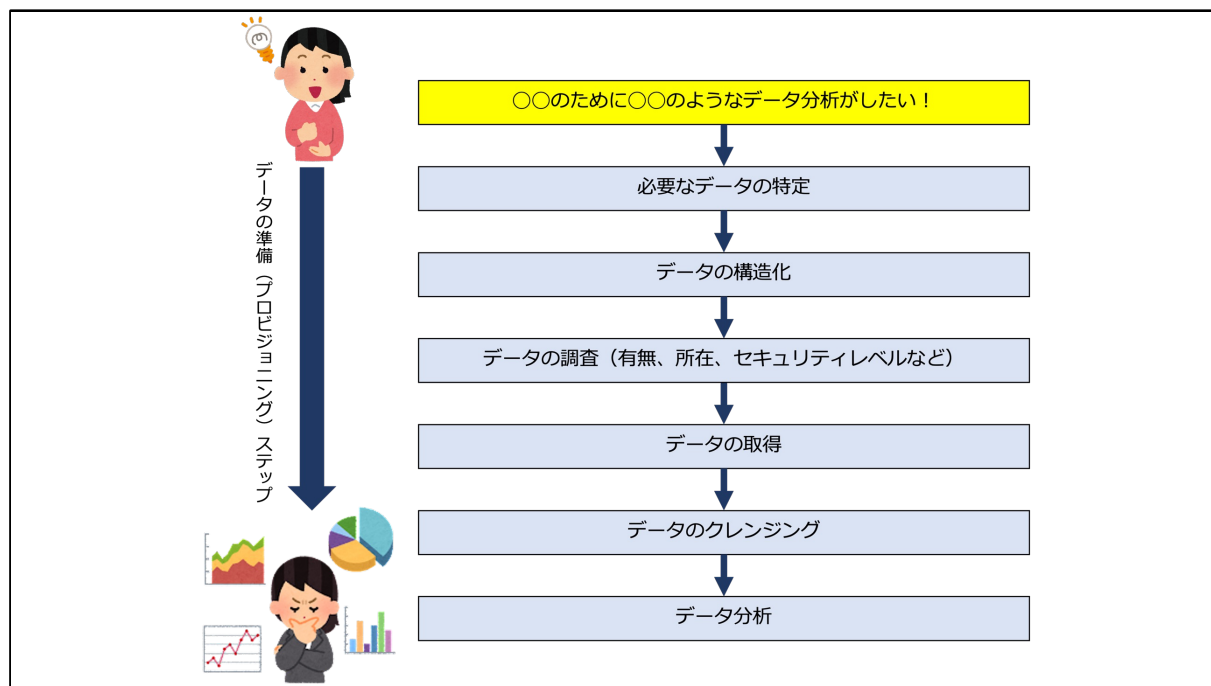




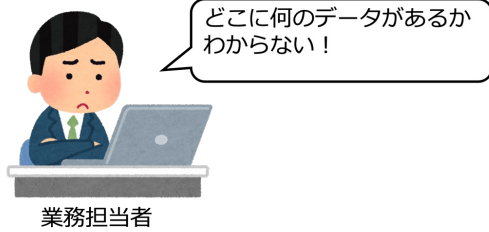
データマネジメント

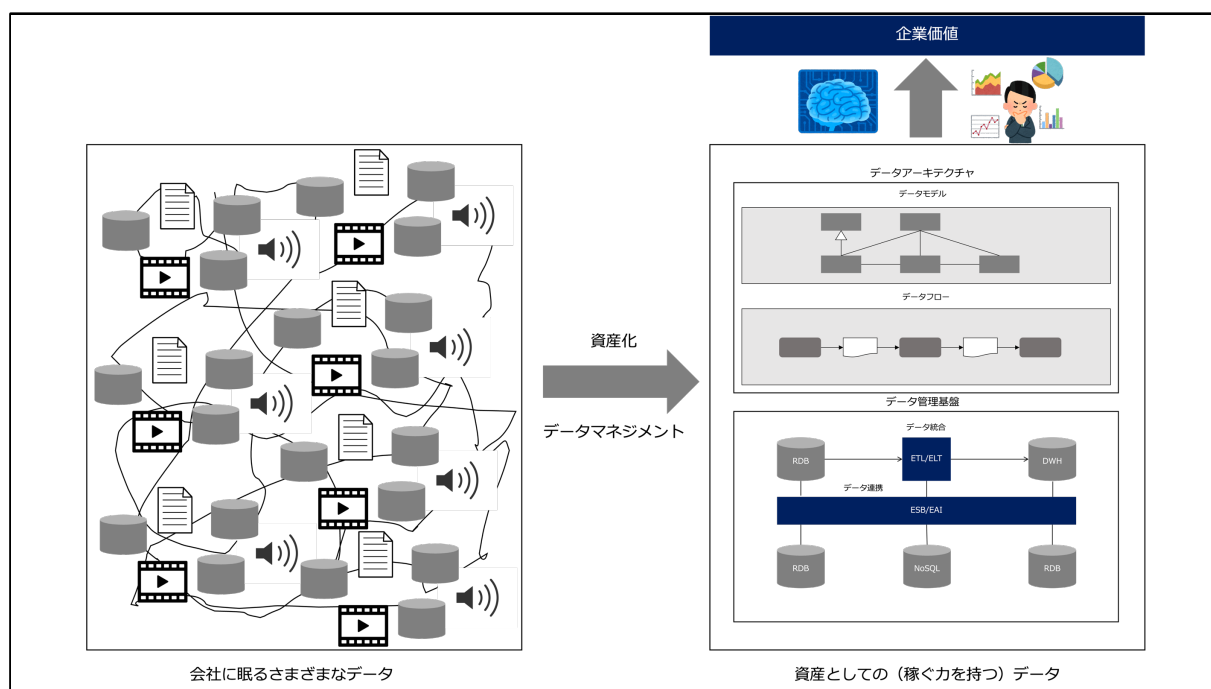


品質とセキュリティの高いデータを「データ利活用」のためにコストをかけずに迅速に準備することができる

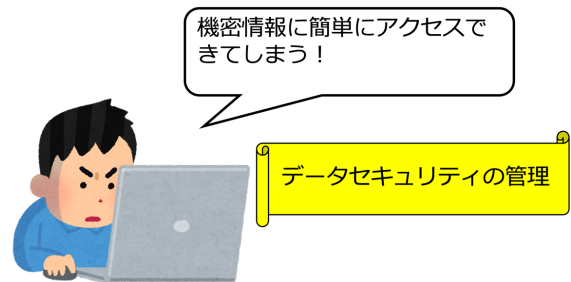
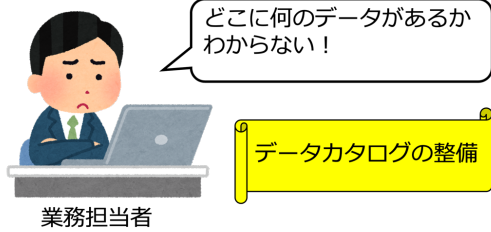


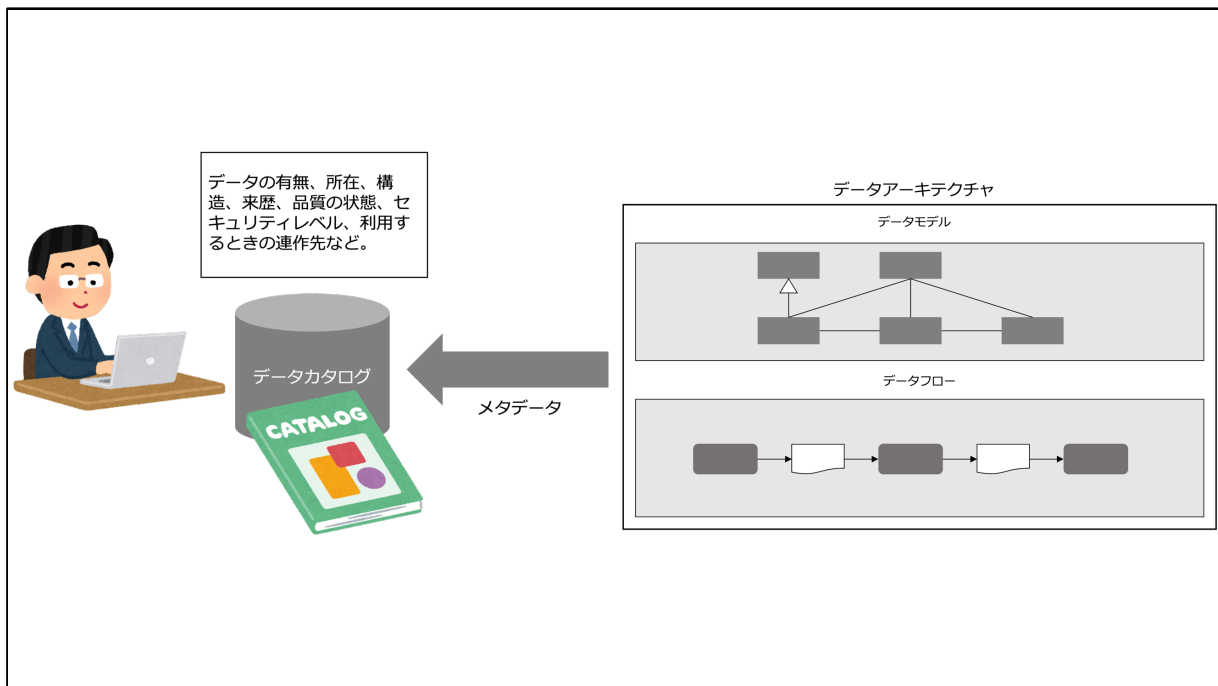
データ利活用に関するさまざまな問題

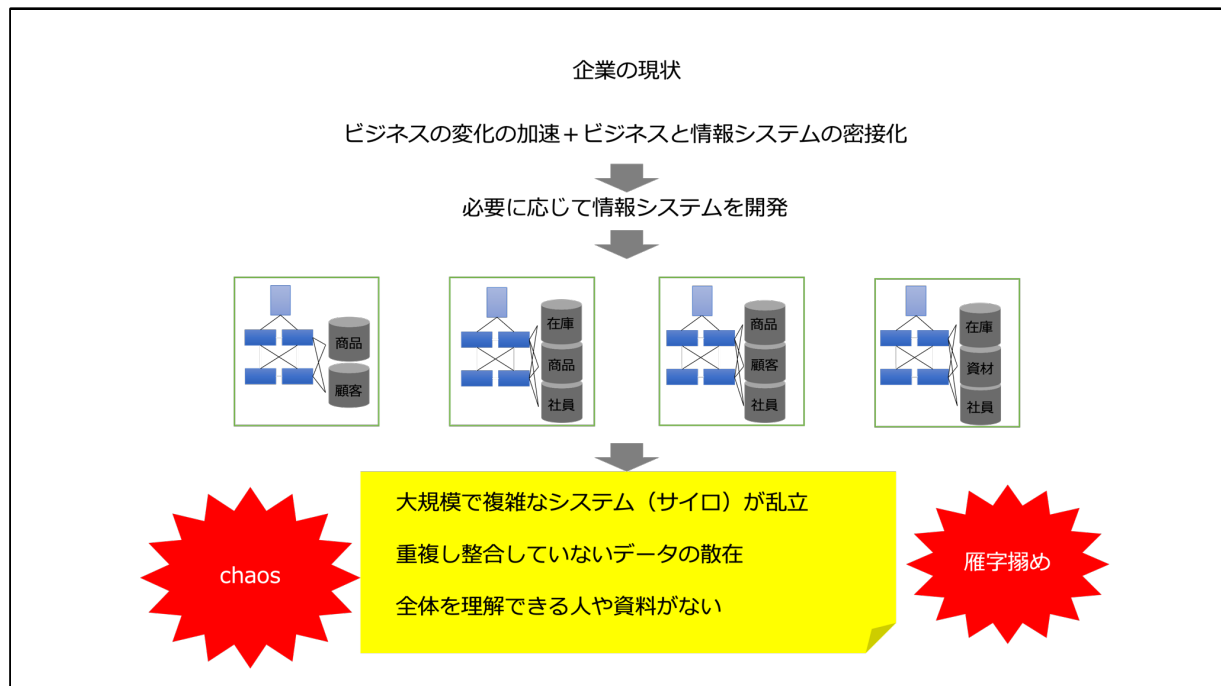


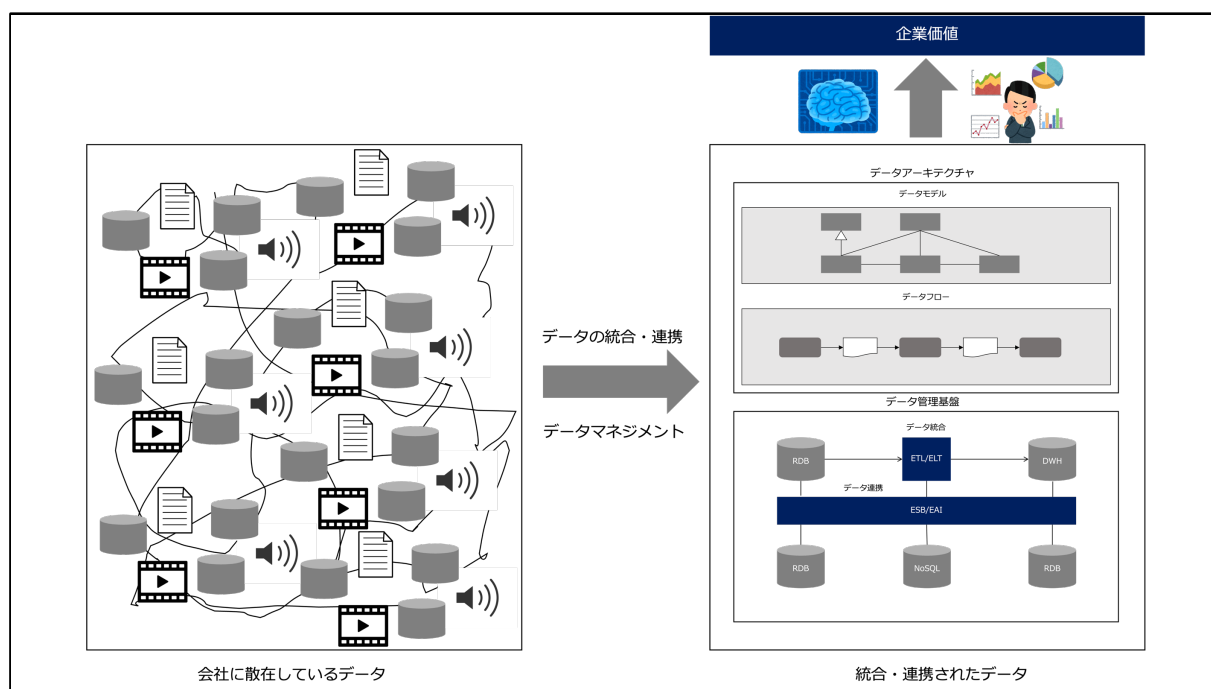


データ利活用に関するさまざまな問題









品質の悪いデータの例

例えば、あるエリアの不動産物件の適正な家賃を推定する場合、広さや駅からの距離、築年数といった変数の影響が大きくなります。

このとき、とある物件の建築年のデータが抜けたまま分析した場合、プログラムがどう判断するのかというと「建築年 = ""」→「西暦00年に建てられた」→「2024年前に建てられた物件」と捉え、広くて駅近なのに、ものすごく古い物件なので「適正家賃は0.01円」という分析結果を出してきたりするのです。

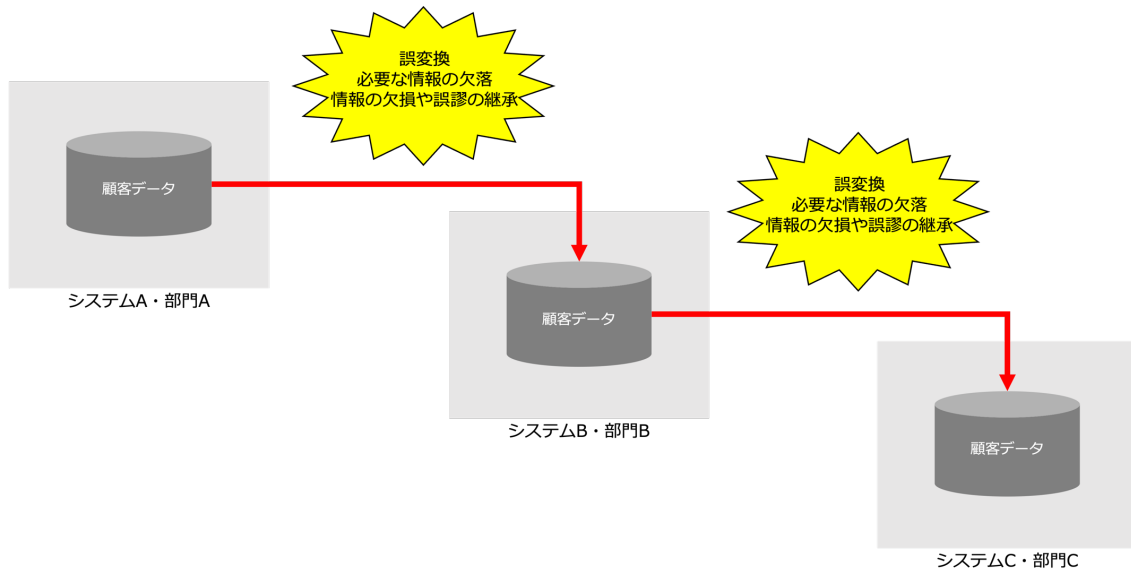
出所 : DATA is BOSS 収益が上がり続けるデータドリブン経営入門

データマネジメントの欠如がもたらすリスク

- 誤請求
- 顧客サービスコールの増加とそれを解決する能力の低下
- 事業機会の逸失による収益損失
- 合併・買収の間に発生する業務統合の遅延
- 不正行為発覚の増加
- 不正なデータに起因する業務上の意思決定不備がもたらす損失
- 良好な信用力の欠如による事業の損失

データマネジメント知識体系 第二版 (DMBOK2)

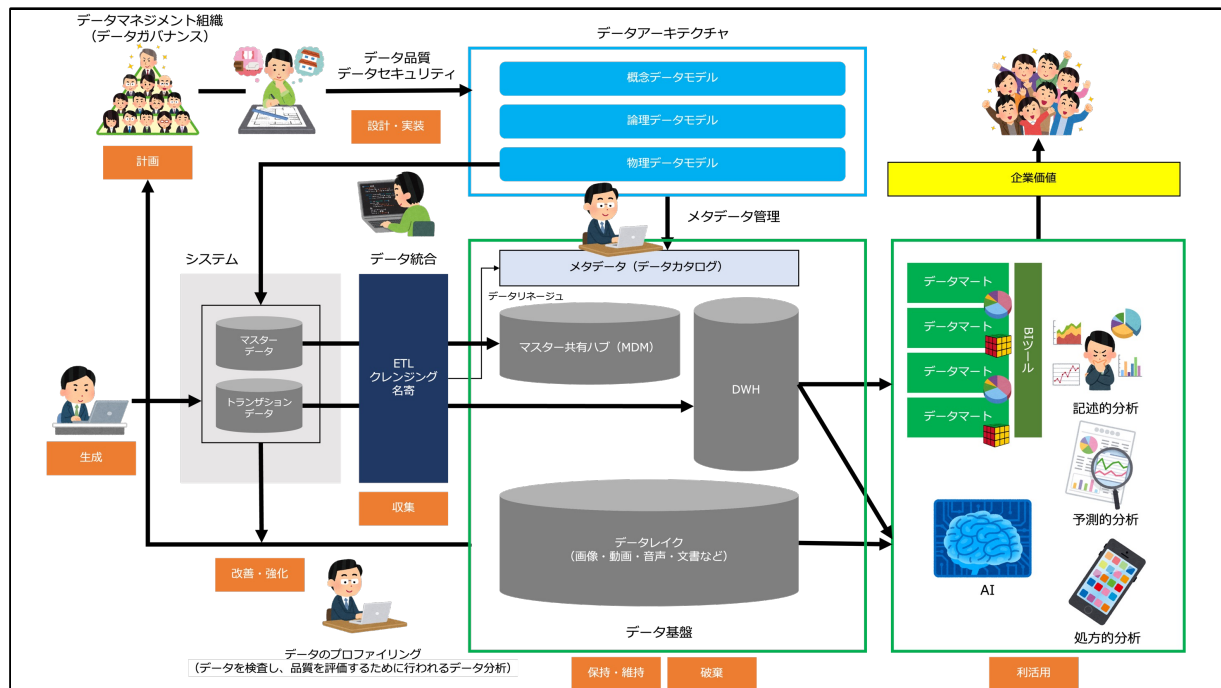
バケツリレーの問題



データ品質確保の重要性

- データクリーニングや、データクレンジングといった言葉を聞いたことがあると思います。データドリブンな意思決定をするには、扱うデータの質が高いことが前提です。データの質が高くないと、「人間なら絶対こんな返答しないよね」という結果を平気で返してくることがあるので、それを踏まえた活用が大事です。
- データの質の担保は、AIによってデータドリブンがしやすくなるだけに、今後さらに重要になるはずです。経営としては、社内でこれらを維持できるよう、努めなければなりません。

出所 : DATA is BOSS 収益が上がり続けるデータドリブン経営入門



データを整備するケイパビリティの不足

こうした場合は、そもそもデータを整備するケイパビリティが不足しています。

具体的には、こういったデータやどんな分析ができれば顧客の姿が見えてくるか描いた上で、収集するデータの定義、データインフラの整備、データの更新方法などを交通整理していく必要があります。

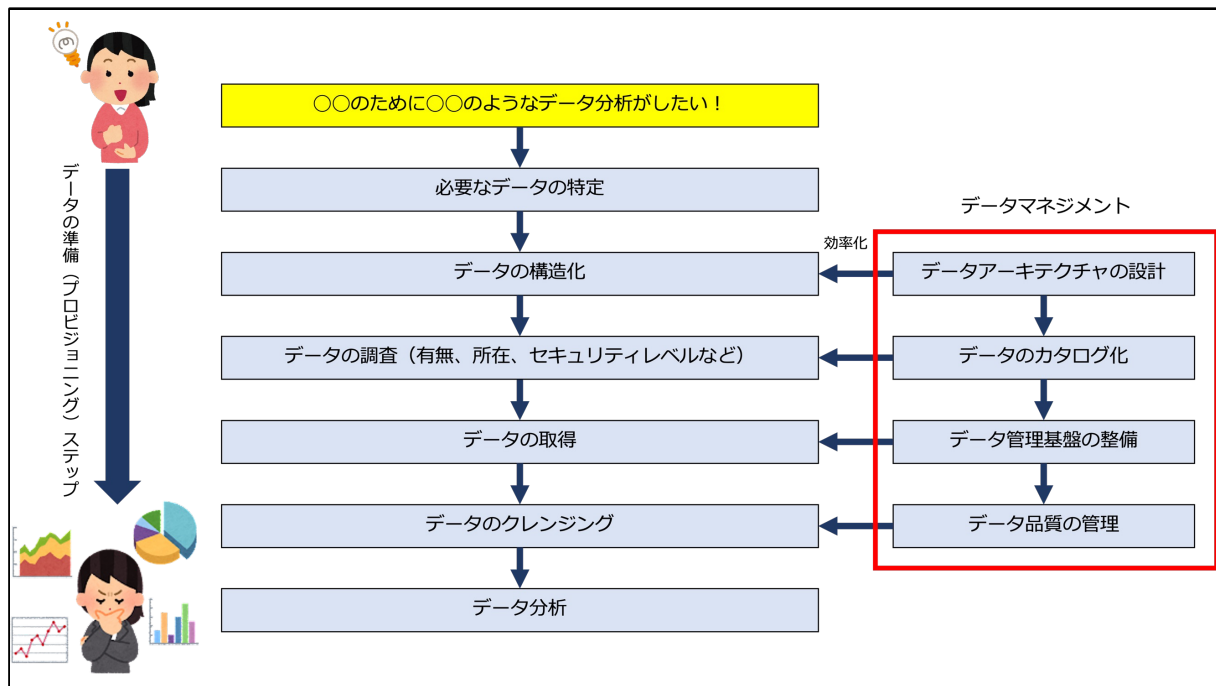
それは事業の特性や組織の状況によって変わってくるので、社内外のリソースをうまく使って、継続的にデータを整備していくための体制づくりから、しっかり取り組むのが得策です。

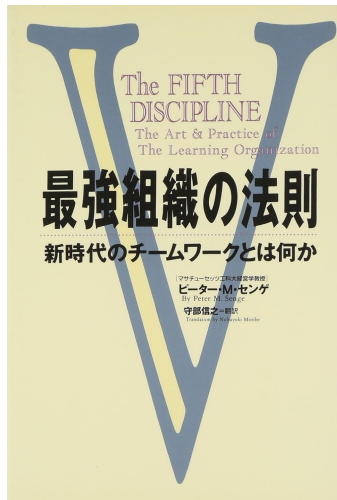
出所 : DATA is BOSS 収益が上がり続けるデータドリブン経営入門

。

データマネジメントの方法

- ビジネスとして経済価値のあるデータを特定する方法
- 企業全体のデータ構造やデータフローを可視化し、データの見取り図（データアーキテクチャ）を作成する方法
- データをカタログ化して必要なデータに関する情報（データの有無、所在、構造、来歴、品質の状態、セキュリティレベル、利用するときの連絡先など）をすぐに入手できるようにする方法
- データを統合・連携することでデータの品質やセキュリティを向上させるとともにデータ利活用の効率を上げる方法
- データのライフサイクルを通してデータの品質（一意性、完全性、一貫性など）やセキュリティを組織的に統制する方法





競争相手より早く学べる能力、それが競争力を維持する唯一の鍵である

競争相手より早く学べる能力をつけることで企業の競争優位性を上げることができる

